

いわての立体造形展

2016年2月6日(土) ~ 4月17日(日)

●会場：萬鉄五郎記念美術館



舟越健次郎《月の座標》鉄・ブロンズ 1964年

優れた彫刻家を何人も輩出した岩手。萬鉄五郎記念美術館収蔵品のなかから選りすぐり、岩手ゆかりの立体作品を紹介します。

【出展作家】(五十音順)

大宮政郎、欠畑美奈子、菊池政美、柵山龍司、佐藤祐行、佐藤祐司、菅沼緑、多田雅彦、田村史郎、藤澤多巳夫、舟越健次郎、舟越保武

田村史郎《初夏》木彫 1986年



●休館日 月曜日
(月曜が祝日の場合翌日)

●開館時間 8:30 ~ 17:00
(入館は16:30まで)

●入館料 一般 400円
高校・学生 250円
小・中学生 150円
* 20名以上の団体各50円引

萬鉄五郎を読む —観る・読む・語る萬鉄五郎(仮題)

2016年 4月23日(土) ~ 7月10日(日)

●会場：萬鉄五郎記念美術館

私の好きな萬鉄五郎この1点というテーマで萬研究者や著名人にエッセイをご寄稿いただき、それを手掛かりに、萬鉄五郎やその作品へ親しみを持って鑑賞いただける展覧会を開催します。日本近代美術を代表する画家でありながら、一般の美術ファンには親まれる機会の少なかった萬鉄五郎作品を、エッセイを手掛かりに読み解く展覧会です。

- 休館日 月曜日(月曜が祝日の場合翌日)
- 開館時間 8:30 ~ 17:00(入館は16:30まで)
- 入館料 一般 400円、高校・学生 250円、小・中学生 150円 ※20名以上の団体各50円引



萬鉄五郎《丘のみち》油彩・画布 1918年

参加募集!

土澤アートクラフトフェア

アート作品・クラフト作品などクリエイターのお店200組を募集します。

- 開催日時 2016年 5月3日(火・祝) ~ 5月4日(水・祝) 10:00~16:00
- 会場 土澤商店街&萬鉄五郎記念美術館前庭(花巻市東和町土沢)
- 募集期間 2016年2月1日(月) ~ 13日(土) 200組募集 ※応募多数の場合抽選となります
- 申込・問合せ先 土澤アートクラフトフェア事務局
花巻市東和町土沢5-405「キクヤ薬局」内 電話：0198-42-2632 メール：tuchizawa_market@yahoo.co.jp
ホームページ：http://arttsuchizawa.com/ ブログ：http://arttsuchizawa.blog.fc2.com/



喫茶「八丁土蔵」

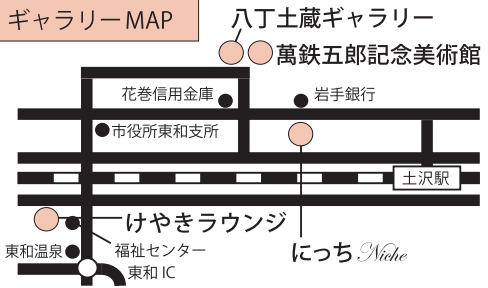


萬鉄五郎の本家「八丁」にあった土蔵を移築復元した、ギャラリーと喫茶スペースです。自慢のオリジナルコーヒー「蔵」「八丁」を、ぜひ一度ご賞味ください。 営業時間：10:00 ~ 16:00 (lo.15:30)

美術の街「土沢」 ギャラリー情報

萬鉄五郎記念美術館とあわせて、「美術の街」土沢めぐりをしてみてはいかがでしょうか。

ギャラリーMAP



萬鉄五郎記念美術館 八丁土蔵ギャラリー

花巻市東和町土沢 5-135 萬鉄五郎記念美術館内
9:00-16:30 月曜休 (祝日の場合は翌日) 入場無料

iwate コンテンポラリーアート

岩淵俊彦 展 crystal garden

結晶の庭
2/6 (土) ~ 4/17 (日)

盛岡在住の版画家・岩淵俊彦の万華鏡をイメージした銅版画、ドローイング、立体作品を紹介。



Gallery Space けやきラウンジ

花巻市東和町安俵6-90 東和図書館内 tel.0198-42-3205
10:30~18:00 (最終日は16:00まで) 入場無料

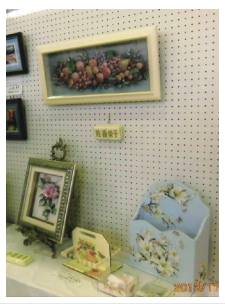
けやきの会コレクション展

2/1 (月) ~ 2/29 (月)



佐藤栄子 デコパージュ展

3/1 (火) ~ 3/31 (木)
優雅な花などをあしらった小物の展示。



世界の雑貨とギャラリー にっち Niche

花巻市東和町土沢8-115 こぼら土澤1階
10:00~17:00 火曜定休 入場無料

羊いっぱい展 2016

1/27 (水) ~ 2/8 (月)

木工作家、羊毛作家、切り絵作家、三人による羊をキーワードにした作品展。



ロシアの 小さな絵本展

2/24 (水) ~ 3/7 (月)

1920~50年代にかけての、素朴で独特の温かさをもつロシアの絵本。



番傘

萬鉄五郎が、「東洋主義」に回帰した晩年の茅ヶ崎時代に描いた日本的油絵の『水着姿』（1926年）は、萬の好んだ対比色・緑と赤の水着のモダンガールが番傘をさして、茅ヶ崎海岸の岩の上に座っている図である。

人目を引く「和傘と水着姿」の取り合わせは、当時の新聞に掲載された写真をもヒントにした構図という。萬はすでに、大正2（1913）年、第2回フウザン会展に出品した『日傘の裸婦』で洋傘をさした裸婦が室内の椅子に座っている図を描いている。萬は美校時代の授業で、よくモデルの裸婦に赤い傘を持たせた（鍋井克之）ということから、「傘をさす裸婦」にこだわりがあったと思われる。足元を洗う波は琳派風に様式化され、小さい烏帽子島で遠近感を出している。人体表現は、前衛志向のデフォルメが影をひそめ簡潔、平明で

存在感がある。新しい風俗として注目された断髪にスカーフを巻いた水着姿のモガに、庶民的な「番傘」を取り合わせたところに、萬ならではの機知に富んだ趣向が感じられる。『水着姿』は昭和2（1927）年、第5回春陽会展に出品されたが、その会期中の5月1日に萬は41歳で亡くなっている。

ちなみに実用向きの骨太の和傘を番傘というのは、商人が客に貸し出すため「番号を書いた傘」からきており、色とりどりの和紙を使い軽くオシャレな細身の和傘は蛇の目傘という。

チェコ出身のオール・ヌーヴォーを代表する画家アルフォンス・ミュシャは、優れたデッサン力を持つ、挿絵画家として評価されていた。当時「神のごときサラ」と言われた大女優サラ・ベルナルルのポスター『ジスモンダ』（1894年）を制作して、一躍パリ中に名前が知られるようになった。19世紀末のパリで、装飾美術「オール・ヌーヴォーの華」と称されたように、ミュシャのしなやかな曲線と美しい色彩は、日本美術のとくに浮世絵の影響が見ら

れる。

ミュシャのポスター『トスカ』（1898年）は、劇の第1幕の場面を描いたもので、背景に使われている装飾的な紋様がなぜか「開いた番傘」の形で占められている。ジャポニスムがここにも！

萬鉄五郎記念美術館長 中村光紀



アルフォンス・ミュシャ《トスカ》 1898年
リトグラフ



萬鉄五郎《水着姿》 1926年
油彩・画布 岩手県立美術館蔵

萬鉄五郎記念美術館 岩手県花巻市東和町土沢 5-135 Tel.0198-42-4402 8:30am. ~ 5:00pm.

yorozu00@cocoa.ocn.ne.jp <http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/503/p004177.html> 月曜休館（祝日の場合その翌日）

発行人／東和町土沢商店街商店会連絡会会長小原茂明